



OKAYAMA UNIV.

文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業（機関連選型）」  
ウーマン・テニュア・トラック教員制



岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

# Newsletter

## 特集

ウーマン・テニュア・トラック (WTT)  
教員研究発表会  
おかやまサイエンス・トーク

### もくじ

特集	ウーマン・テニュア・トラック (WTT)	
	教員研究発表会	1
	おかやまサイエンス・トーク	2, 3
	平成25年度 研究支援員事業	3
	第IV期WTT教員着任/イベント実施報告	4
	ニーズ調査を実施/男女共同参画関連図書コーナー/ 学会・学外活動記	5
	女性サポート相談室だより/お知らせ/ 新室員紹介/編集後記	6

## 平成25年度 ウーマン・テニュア・トラック教員研究発表会

平成25年12月25日、創立50周年記念館にて「平成25年度ウーマン・テニュア・トラック (WTT) 教員研究発表会」を開催しました。研究発表会は、本学で実施している WTT 教員制に関して学内外での認知度を高めるために、昨年に引き続き2回目の開催となりました。

当日は、第III期、第IV期 WTT 教員6名と既にテニュアを取得した4名の若手女性研究者が、自身の研究テーマの進捗状況等について報告しました。20分間という短い持ち時間ではありましたが、参加者からは質問やアドバイスが積極的に出されました。



当日は本学関係者および一般参加者ら約70名が参加

### 研究発表者一覧 (発表順)

#### 午前の部 第III期、第IV期 WTT 教員

- 門田 有希** 大学院環境生命科学研究科 (農)  
農作物種における活性型レトロトランスポソンを利用した遺伝解析
- 山本 ゆき** 大学院環境生命科学研究科 (農)  
配偶子/初期胚輸送を担う卵管とその機能制御メカニズム
- 日浅 未来** 大学院医歯薬学総合研究科 (薬)  
小胞型伝達物質トランスポーターとその生理作用についての研究
- 増田 潤子** 大学院自然科学研究科 (工)  
体性幹細胞を用いた新たながん治療の開発
- 本田 恭子** 大学院環境生命科学研究科 (環)  
農業用水の市民 commons の管理における多様な利用者のかかわり
- 齋藤 光代** 大学院環境生命科学研究科 (環)  
陸水-海水境界域における物質循環-地下水流出の影響とその役割を探る-



日浅 未来 WTT 教員

本田 恭子 WTT 教員

#### 午後の部 テニュア教員

- 江口 律子** 大学院自然科学研究科 (理)  
電界効果キャリアドーピングによる無機・有機薄膜の物性制御
- 御輿 真穂** 大学院自然科学研究科 (理)  
脊椎動物におけるアドレノメデュリンファミリーの進化と機能
- 西村 美保** 大学院自然科学研究科 (理)  
光合成の品質管理機構とチラコイド膜の構造変化について
- 三谷 奈見季** 資源植物科学研究所  
イネのケイ酸吸収とその制御機構の解明を目指して

### 参加者からの声

- ・ WTT の先生方の研究内容を一度に聞ける唯一の機会であり、大変興味深いです。
- ・ 研究に対するモチベーションが高まりました。先生方の発表も参考にしたいと思います。
- ・ この制度が始まって間もないですが、皆さんそれぞれ研究の方向性をもっておられ、良い方向で進んでいると感じました。

Woman  
Tenure  
Track

平成25年度

# おかやまサイエンス・トーク



持続型人材育成部門長 坂口 英  
(大学院環境生命科学研究科(農) 教授)



本年度は、県内8校で理系分野の研究を紹介する「サイエンス・トーク」を開催しました。本年度で4年目となるサイエンス・トークは、高校生特に女子高生に理系分野の勉強や進学に関心を持ってもらうために行うもので、ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員と大学院生各1人による研究内容紹介と高校生からの質問タイムからなっています。

このような機会は、大学院生にとって貴重な社会貢献活動となるだけでなく、プレゼンテーションの練習、先輩助教のプレゼンテーションを聞くよい機会となります。毎年6月頃に、協力院生の公募を開始いたします。是非奮ってご応募ください。今後も、サイエンス・トークへの御支援を宜しくお願いします。

第1回

## 学校法人作陽学園 岡山県作陽高等学校

開催日：平成25年7月12日(金)  
参加者：S特・特進1年生 65名



「分子シミュレーションと鉱物」

則竹 史哉 大学院環境生命科学研究科(環) 博士後期課程2年

「植物が秘める生き抜く力」

三谷 奈見季 資源植物科学研究所 助教

第2回

## 岡山県立 矢掛高等学校

開催日：平成25年7月23日(火)  
参加者：1～3年生 約70名



「液体構造を明らかにする武器—分子シミュレーション」

則竹 史哉 大学院環境生命科学研究科(環) 博士後期課程2年

「地球の環境変化と森林」

宮崎 祐子 大学院環境生命科学研究科(農) 特任助教

第3回

## ノートルダム清心学 園清心女子高等学校

開催日：平成25年8月29日(木)  
参加者：生命科学コース1～3年生  
64名



「病気の原因を解明しよう～体におけるトランスポーターの役割～」

加藤 百合 大学院医歯薬学総合研究科(薬) 博士後期課程1年

「DNA 鑑定で何ができるの？」

—日本の農業、そして、私たちの食生活を守るために—

門田 有希 大学院環境生命科学研究科(農) 特任助教

第4回

## 森教育学園 岡山学芸館高等学校

開催日：平成25年9月24日(火)  
参加者：医進コース1～3年生 約40名



「将来の医療に繋がること」

原 規子 大学院医歯薬学総合研究科(歯) 博士後期課程2年

「薬物トランスポーター～よりよい医薬品の開発を目指して～」

日浅 未来 大学院医歯薬学総合研究科(薬) 特任助教

第5回

## みつ朝日学園 朝日塾中等教育学校

開催日：平成25年9月27日(金)  
参加者：1、2年生 67名



「身の回りの化学～フッ素のお話～」

吉川 舞 大学院自然科学研究科(工) 博士前期課程1年

「陸—海境界域のサイエンス

～目に見えない地下水がつかなく陸と海～」

齋藤 光代 大学院環境生命科学研究科(環) 特任助教

第6回

## 岡山県立 林野高等学校

開催日：平成25年10月3日(木)  
参加者：1年生 126名



「血小板はどのようにしてATPを蓄積するのか？」

外川 奈津子 大学院医歯薬学総合研究科(薬) 博士後期課程1年

「命が生まれるためのメカニズム」

山本 ゆぎ 大学院環境生命化学研究科(農) 特任助教



### 第7回

## 岡山県立 岡山一宮高等学校

開催日：平成25年10月11日（金）  
参加者：理系2年生および理数科女子  
76名



### 「ニュートリノとスーパーカミオカンデ」

森 俊彰 大学院自然科学研究科(理) 博士後期課程3年

### 「生体防御と糖鎖」

前田 恵 大学院環境生命科学研究科(農) 特任助教

### 第8回

## 岡山県立 総社高等学校

開催日：平成25年10月18日（金）  
参加者：自然探求コース1、2年生  
および希望者 約40名



### 「森林の“うごき”をみてみよう

～20年前との比較からみえてくるもの～

木下 秋 大学院環境生命科学研究科(農) 博士前期課程2年

### 「iPS細胞を用いてがんを解明する」

増田 潤子 大学院自然科学研究科(工) 特任助教

### 参加校担当教諭から

## 「おかやまサイエンス・トーク in 総社高等学校」を終えて

岡山県立総社高等学校  
教諭 桑木 亨

総社高校で研究を紹介してくださったのは、増田潤子特任助教と大学院生の木下秋さんでした。増田先生の講演は、色々なエピソードを交え、パワフルなお話して、時間が経つのが早く感じられました。また、木下さんは本校の卒業生で、生徒にとっては大変身近に感じられたと思います。研究の紹介だけではなく、高校時代の話から受験勉強のアドバイス、大学生活の紹介もあり、わかりやすい内容でした。

フリー・トーキングでは坂口教授が話しやすい雰囲気を出してくださり、活発な質問や意見交換ができました。改めて、集まった生徒達が科学に興味があるのだと再認識できました。

## ■ 平成25年度 研究支援員事業 ■

### 研究支援員事業ってどんなもの？

「研究支援員事業」とは、出産・育児・介護等により研究時間の確保が困難な教員等に対して、研究補助業務に従事する研究支援員を配置する事業です。今年度は9名の教員の方々がこの制度を利用されましたが、その内4名は男性教員による利用です。

詳細はHP（ダイバーシティ推進本部→男女共同参画

室→研究支援事業）をご覧ください。男女共同参画室までお問い合わせください。



## 研究支援員事業利用者エッセイ

大貫 俊夫（大学院社会文化科学研究科(文) 准教授）

2013年4月に着任して、右も左も分からない状況が続く中、研究支援員事業の存在を知りました。支援事業の概要を見て、ぱっと活用するイメージが頭の中に浮かんできたため応募を決意しました。

現在は、男性も子育てを担って当然の時代です。そのため、この事業が男性にも開かれているのは、時代のニーズにあっており大変素晴らしいことだと思います。私の場合、妻が徐々に新しい土地に慣れ仕事を見つけられたものの、岡山に親戚はおらず、引っ越してきたばかりで子どもを常時保育園に預けることもできません。そのため、研究・教育の推進と気持ちよく子どもの面倒を見ることの両立が、目下最重要課題になっています。

私の専門である西洋史学では、膨大な数の文献を扱います。

そこで、支援員を引き受けてくれた学生には、必要な文献の取り寄せと複写をお願いしました。すると、これだけで研究が円滑に進むことを実感できました。負担を一部肩代わりしてもらうことで得られる心理的解放感は、研究のみならず、子育てや夫婦関係にも良い影響をもたらしてくれました。今回の支援を無駄にすることなく、今後も良質な研究・教育に励んで参ります。



### 研究支援員の「声」

文学部2年 片岡 麻理菜さん

今まで触れる機会がなかった海外の文献や研究を取り扱うことができ、自分にとっても大変勉強になりました。

## 第Ⅳ期WTT教員着任

既に活躍している第Ⅳ期WTT教員2名に加え、平成25年12月1日付けで第Ⅳ期WTT教員1名が着任しました。

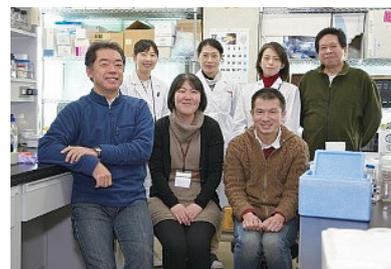


いけだ ようこ  
池田 陽子

所属 資源植物科学研究所

最終学歴 京都大学大学院理学研究科 博士課程修了

前職 日本学術振興会海外特別研究員（受入先；フランス国立科学研究センター）



### 【研究の紹介】

遺伝情報はDNA配列だけでなく、DNAメチル化やヒストン修飾などのエピジェネティックな情報として書き込まれています。私は植物において、これらの遺伝情報が環境変化に対応してどのように変化するか、さらにどのように次世代に伝わるのかに着目した研究を行っています。

### 【WTT教員としての抱負】

私の所属する資源植物科学研究所は、植物の研究拠点として活発に研究が進められており、植物遺伝資源の保存も積極的に行われています。このような研究環境を生かしつつ、オリジナリティーのある研究を目指して行きたいです。また、これまで課題に直面した際、いろいろな方々の教えを受けて多くのことを学んできました。フランスでの研究生活においても、言葉の違いを超えて、研究を楽しむことができました。これらの経験を、今後学生さんたちに還元していきたいと思っています。

## イベント実施報告

### 平成25年度 第1回交流サロン

テーマ：「プロとして輝く！私たちの研究スタイル」

開催日：平成25年10月16日（水）

場 所：創立50周年記念館2階 会議室

今年度の交流サロンでは、揖斐隆之氏（大学院環境生命科学研究科（農）准教授）、荒川健佑氏（大学院環境生命科学研究科（農）助教）、三谷奈見季氏（資源植物科学研究所 助教）、飯尾友愛氏（大学院保健学研究科 特任助教）の4名の若手教員の方々にパネリストとして参加していただき、留学、民間での経験や研究と家庭の両立などをテーマにトークセッションを開催しました。パネリストの先生方から、御自身の体験などを交えたお話があり、参加した教員や学生の方からは、「若い先生方の生活スタイルがわかってよかった」などの感想が聞かれました。



### 平成25年度 第2回研究スキルアップ講座

開催日：11月28日（木）／11月29日（金）

場 所：鹿田キャンパス 地域医療人材育成センター 3階 マスカットホール  
津島キャンパス 一般教育棟 3階 A36

平成25年度第2回研究スキルアップ講座は、鹿田キャンパスと津島キャンパスの両キャンパスで、前回に続きミリンダ・ハル（Melinda Hull）氏（東京工業大学 特任准教授）を招き、「英語論文書き方セミナー実践編」を開催しました。両キャンパスで、本学の教員や大学院生ら90名あまりが参加し、第1回の講座の復習から演習を交えた講義を熱心に受講しました。参加者からは、「前回の復習ができた」「より実践的な講義内容だった」などの感想が聞かれました。



### 平成25年度 男女共同参画に関する管理職セミナー

テーマ：「ワークライフバランスと人材マネジメント～企業の事例に学ぶ」

開催日：平成25年12月4日（水）

場 所：本部棟6階 第一会議室

「第4回男女共同参画に関する管理職セミナー」は、脇坂 明氏（学習院大学教授）を講師に企業におけるワークライフバランスと管理職の役割についてお話しいただきました。最初に、ワークライフバランス施策を早くに導入した企業ほど、経営業績が良好であるという分析結果が提示されました。その後、いくつかの企業の取組事例について紹介があり、「働く者同士のコミュニケーション」、「管理職を主体とした組織的な取組」の重要性が示唆されました。



## ニーズ調査を実施

平成25年11～12月にかけて、研究職の方を対象に「研究と家庭の両立支援に関わるニーズ調査」を実施しました。今回の調査は、子供を一時的に預けたり、待機させたりすることができる保育ルームの設置、保育や介護で研究時間の確保が困難な研究者を支援する研究支援員制度の利用、研究能力の向上を目的としたスキルアップ講座等のニーズを中心に実施しております。調査の結果の概要は、**男女共同参画室のHP**でご覧いただけます。

[http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/h26\\_needs.html](http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/h26_needs.html)

## 男女共同参画関連図書コーナー

平成26年2月より、**附属図書館の新館1階**に「男女共同参画図書」コーナーが設置されました。男女共同参画室では、男女がそれぞれに能力を発揮できる職場作りを応援しており、図書コーナーには、キャリア形成、イクメン、ワークライフバランス、スキルアップなどに関連した図書が並びます。お時間があるときに、皆さんも是非足をお運びください。



連載

## 学会・学外活動記②

「研究発表を通じて～」 第三期 WTT 教員 門田 有希



私は、環境生命科学研究科に所属し、主に農作物の育種、遺伝学に関わる研究に務めております。この秋から冬にかけ、さまざまな研究集会、学会、セミナー等に参加しました。今回は、その一部について紹介させていただきます。

昨年9月、オランダで Plant Genome Evolution というミーティングが開催されました。初めて訪れたアムステルダムの街は非常に魅力的でした。おしゃれな建物が多く、町の中心には有名な河川が流れ、世界中から集まった観光客でにぎわっている印象でした。さて、肝心のミーティングですが、日本人研究者の割合が非常に少なかったのですが、その分、さまざまな国の研究者と知り合いになりました。活発にディスカッションし、共同研究の提案も頂きました。オランダ最後の夜は、日本人一人で中国人研究者の輪の中に入り、中華レストランで“打ち上げ”のようなものに参加したこともいい思い出です。

昨年9月から12月の4か月間で、10回以上研究発表等させて頂きました。それにより、貴重なアドバイスを頂いたり、共同研究の機会を得ることもありました。研究者のネットワークを築き、自身の研究を発展させる為にも、これからも積極的に研究発表・学会参加に取り組みたいです。



アムステルダムにて



連載

## 学会・学外活動記③

「母校での研究発表」 第三期 WTT 教員 山本 ゆき



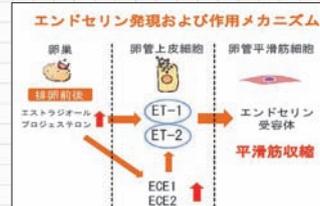
写真前列中央 山本 ゆき 特任助教

平成25年9月に私の母校の東京農工大学で開催された「日本繁殖生物学会」に参加しました。母校を出て1年半の成果を恩師や後輩の前で話すという、安心感と緊張感が混ざった発表となりました。「ウシ卵管における

Endothelin 発現制御メカニズム」というタイトルで、哺乳動物の卵管が卵子や受精卵を卵巣から子宮へ送り届けるために重要なぜん動運動（卵管平滑筋の収縮弛緩運動）をコントロールする Endothelin という物質の発現について、ウシをモデル動物として調べた内容です。

本学会では、若手研究者が主体となって「若手企画シンポジウム」を運営しています。私も今年度から企画グループに加えていただきました。今回は「学会で質問をしよう！」というのがテーマで、メンバーが覆面審査員として参加し、会場で良い質問をした方（主に学生さん）に「優秀議論賞」という賞を授与する企画でした。今回私は手伝い程度しか出来ませんでしたが、とても新鮮で若手研究者のパワーを感じる事が出来ました。

博士号を取得した研究者、大学教員としての学会参加経験はまだ多くありません。その数回の経験を通して感じるの、周りの自分に対する認識の変化です。それに応えよう意識して、今後も学会に参加したいと思います。



「ウシ卵管における Endothelin 発現制御メカニズム」より抜粋

# 女性サポート相談室



## 相談室活動報告

～4年を振り返って～

女性サポート相談室の開設から4年が経過しました。その間、キャリアカフェ15回、心理研修9回（内：学外2回）等を実施する中で、相談室の存在を知っていただき、多くの方々との出会いがありました。4年間で約350件の相談を受けましたが、相談内容で、もっとも多いのは「職場での人間関係」、次に「仕事と家庭の両立／子育て」に関わる内容で、同僚・上司・学生、また夫や子どもとの関わり方について、悩みの原因となっているその人たちの行動や発言をどう理解し対応したらいいのかといった相談でした。

女性サポート相談室では、そうした苦痛を和らげるための心理的援助を行っています。活動する中で「相談しても仕方がない」、「話をして何が変わるのか」との声もありますが、この相談室は、現実を変える役割を担っていません。相談して劇的な変化を期待する方もおられますが、そうした魔法のような力を持ち合わせてはしません。相談に来られた方の目には見えない心の有り様を少しでも変化させていくことが相談員としての使命だと思っています。

教職員の皆さまが研究・教育活動などの仕事に専念できるよう、心をbrush upするお手伝いをしてまいりますので、今後とも活動へのご支援を宜しく願っています。

相談はこちらへ

- メールアドレス : support-w@adm.okayama-u.ac.jp
- 電話番号 (代表) : 086-251-7011 (予約制)

## お知らせ

平成25年12月18日(水)国際ソプロチミスト笠岡より、小畑相談員がルビー賞を受賞しました。この賞は、職業や生活を通して、女性と女兒の生活を向上させることに貢献した女性に贈られるものです。本学の女性サポート相談室での活動と、相談員のフィールドワークでもあるDVの被害を受けた女性とその子どもへのカウンセリング活動に対する活動が認められました。また、今回の受賞により、西日本ソプロチミストへもノミネートされることになりました。

(12月19日付けの山陽新聞掲載)

## 平成25年度 第5回「Career Café」

開催日：平成25年11月18日(月)

場所：医学部記念会館 女性サポート相談室

「キャリアカフェを鹿田でも是非」というある職員の方からのありがたいお声があり、今回久しぶりに開催いたしました。参加者の皆さまは1歳～10歳までのお子さんをお持ちのママたち。自分の子どもが通う保育園・幼稚園・小学校の様子やママ友からの情報をお互いに話し合いました。そんな仕事と子育ての忙しい中、一人のママがこのキャリアカフェの参加する皆さんのためにと、自家製ぜんざいを持ってきてくれたのです！そのとても美味しいこと。こうしたサプライズもあって、いつも以上にトークに花が咲きました。



／ よろしくお願ひします！ ／

### 男女共同参画室 新室員紹介

池亀 美華

大学院医歯薬学総合研究科(歯) 准教授



今年度秋から室員となりました池亀美華です。10年前新潟から参りました。骨組織細胞の形態学的研究を行っています。男女共同参画室には意欲的でフランクで明るい雰囲気があって、ここの一員に加えていただけることにワクワクしています。多少なりともお役に立てれば嬉しく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 編集後記

今年は、9名の先生方が研究支援員制度を利用されています。また、その内の4名が、男性教員の方々です。申請には、書類と面接による簡単な審査がありますが、予算の範囲内であれば、極力申請者の力になれるよう考慮しております。応募を迷われたり、不明点がございましたら、まずは一度男女共同参画室へご連絡ください。

昨年11月に実施いたしました教員対象のニーズ調査へのご協力ありがとうございました。集計結果の概要は、男女共同参画室のHPで御覧いただけます。

今後とも、参画室の活動への御理解と御支援を宜しくお願ひいたします。

## お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学  
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530  
岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号  
TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033  
Email: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp  
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo

